

【所属名：環境生活課】

【会議名：第1回糸魚川市環境審議会】

会 議 録

作成日 平成30年8月16日

日	平成30年3月30日	時間	13:00 ~ 15:00	場所	市役所203・204会議室
件名	議題 ・ 環境基本計画 PDCA 進行管理について (公開)				
出席者	【出席者】 10人 山縣委員 池亀委員 菅原委員 田村委員 高野委員 杉本委員 齋藤委員 安田委員 石橋委員 小野委員 【欠席者】 3人 松浦委員 吉田委員 杉野委員 【事務局】 五十嵐課長、高野課長補佐、川原主査、横澤主任主事				
	傍聴者定員		人	傍聴者数	1人

会議要旨

1	開会	進行 五十嵐課長
2	会長、副会長の選出	会長に山縣耕太郎委員、副会長に池亀正文委員を選出
3	議事	《主な質疑・意見》 ●環境基本計画PDCA進行管理表について ・基本目標1 自然環境 【委員】 ペレットストーブの申請件数の減少と実態はどうか。 【事務局】 平成25年度から補助事業を開始し35件の申請があり、すべて交付した。しかし、申請交付件数が減少してきている。欲しい方にはいきわたったということでの減少と、灯油価格が高騰していた頃の代替の暖房機としての役割もなくなってきたことでの減少と考えている。近年の申請者は石油ストーブの代替としての購入ではないと考えている。

【委員】 間伐の促進とペレットストーブの普及について、何か考えていかないといけないのではないか。他地域では木材の持ち込みについて市で補助があり地域通貨として、活用されている事例がある。市ではどのように考えているか。

【事務局】 新エネルギービジョンでも市内で発生する間伐材などを利用してペレットにして、普及することが記載されている。市内の森林整備が進んでおらず間伐材の全体量に限りがあると言われている。森林整備の強化も論議されており、普及が先か整備が先かを調整しながら進めていかなければいけないと考えている。

【委員】 田海ヶ池をモデルケースとした環境保全での外来種の駆除の取組みについて、取組み内容と成果について教えてもらいたい。

【事務局】 田海ヶ池トンボを守る会に草刈りや歩道整備など保全活動を委託している。
平成 25 年度より 3 年間、びわ湖博物館の学芸員の助言をいただき、卵の駆除の実証実験を行ったが、成果が見られなかった。
今年度地域と懇談を行い、平成 31 年度池干しのような事業を行うこととし、平成 30 年度は有識者と環境への影響など検討や事業内容の協議を行う。

【委員】 鳥獣対策について 6,837 千円計上されているが、現状を聞かせてほしい。

【事務局】 ツキノワグマの出没やサル被害は以前からあったが、最近ではイノシシによる農作物被害が多く、捕獲数も増えている。電気柵のないところへの被害が多く、猟友会と連携して、捕獲など個体数管理をしていく。

【委員】 狩猟免許取得補助について、年齢層や取得者の状況を聞かせてほしい。狩猟者の高齢化が進んでいることと、会社員は活動時間が限られていると聞くが、対応を知りたい。

【事務局】 猟友会の会員数は、平成 17 年度 75 名だったが、高齢化が進み 55 人まで減った時期もある。各種助成を開始してから若い人が増え、現在 74 人まで回復している。
60 歳以上が 67%の割合に変化はないが、皆さん年を取られていく中、平均年齢が変わらないのは、若い方に加入いただいているということ。補助制度を継続する中で若い方を確保していきたい。

【委員】 免許取得には補助あることをアピールし、一般の方でも免許を取得し、鳥獣対策関係に寄与できるよう周知してほしい。

【事務局】 広報だけでは弱いので、秋に「わな猟技術研修会」を開催し、免許取得補助や罠の設置方法を学んでいただくような周知活動をしている。今後も続けていきたい。

【委員】 市の職員も免許の取得をすればどうか。

【事務局】 市の職員も 20 人以上の取得者がいる。担当課・両事務所を中心に継続して取得するようしていきたい。

【委員】 環境対策とは、何を対象として、どこに重点を置いて活動しているのか。

【事務局】 PDCA 表に細かいものを記載している。庁内多くの課で担当する事業を載せてある。どこに力を置くかということはないが、関係機関や市民と連携し、各種事業に取り組み、それぞれの分野で、力の入れ場所を決めている。

【委員】 イノシシ対策として、オオカミのおしっこを使った対策があるが、結果は。春先に畑荒らされウルフピーを設置した、設置場所以外のところは荒らされた。一定の効果はあるのかなと思っている。今年度も配付できるのか。

【事務局】 野生鳥獣は知らない臭いに近づかないという原理を利用した商品で、使っていた方の方の感想としては、効果あるという方も無いという方もいる。
来年度も使っていただける方には提供していきたいが、一人一回としている。
施策としては、確実な効果がある電気柵にスライドしている。

【委員】 駅北大火関連では、22 軒の人が新築する。地元産材を使っていただく取り組みはどうなっているか。

【事務局】 市内全域では住宅で 20 軒、店舗で 2 件となっており、復興関係では住宅が 10 件店舗が 2 件となっている。
この事業については、森林組合と商工農林水産課で調整し実施している。

【委員】 海のことを書いてないが、海岸などの話はないのか。
糸魚川の海で魚が取れなくなっていて、海の環境が変わったのは。山の環境が変わったことによるものだと講演を聞いた。

【事務局】 環境基本計画は海岸線までを範囲としており海は対象としていない。ただ、山の荒廃や河川の整備が海に与える影響は多いと感じている。

【委員】 海岸の美化などは、計画に乗っている。海の環境は陸の影響も多いので、そういった目でも見てほしい。

大気・水・地盤等に対して顕著な変化はなかったか。

【事務局】 大きな変化はないが、新たな問題として、小滝川で白濁した水が流れる事案があった。各種検証により蛇紋岩の大規模な崩壊が起こったことによるもの。乾燥することでアスベストが飛散するのではないかという心配があり、水と大気の調査をしたが、通常と異なる数値は監視されなかった。雪解け時に、またそのようなことがあれば対応したい。

【委員】 北陸新幹線の騒音関連だが、29年度、実際に騒音等の対策について、機構などに対策を申し入れた件数は何件か。

【事務局】 本年度、機構の東京本社に要望活動をし、鉄道運輸機構の長野と富山に申し入れをしている。また、県が市内4カ所の騒音測定をしているが、梶屋敷が基準を超過したものの、その他は基準値以内となった。昨年度は3カ所で超過があったが、音源対策が進んだものと思う。

【委員】 糸魚川で大量に不法投棄されたという事例はあるか。

【事務局】 ここ数年大きなものはない。犯人が特定できる場合は警察に通報している。ごみを動かすと警察対応できないので、そのまま連絡が欲しい。

今年度も複数の警察事案があるが、警察事案となった場合、結果がなかなか教えてもらえないので、警察にお任せすることとなる。

【委員】 大野の埋立地は、あと何年ぐらい持つのか。満杯の場合、次の候補地は。また、須沢のごみ処理施設が新しくなるが、今の能力と新しくなった場合の能力は。

【事務局】 大野の処分場は、平成20年度以降休止し、適正化工事を実施した。27年度に工事が終了し廃止するための準備をしている。今春の4月か5月に廃止予定。

現処分場の下流側に屋根付の一般廃棄物最終処分場を建設する予定としており、地元との話し合いにより焼却飛灰を15年分埋め立てる計画で6,000㎡の施設を予定している。30年度中に発注し、33年から15年間の使用計画だが、それまでの間は、資源化を進め、埋立せざるを得ない物はエコパークへ搬出を続ける。

今のごみ処理施設の能力は、炭化方式で70t/日の炉となっており、新しい施設はストーカ式の一般的な焼却施設で、処理能力48t/日となる。これは、1人当たりの排出量の減少と人口減によるもの。

【委員】 出雲崎に運搬していないのか。

【事務局】 資源にならない燃やせないごみは、現在もエコパーク出雲崎に運んでいるが、分別を徹底し、少ない量となるよう市民にお願いしている。

【委員】 糸魚川市内で処理が完結していないということか。

【事務局】 最終処分まで含めれば、市内で完結していない。プラスチックもセメント原燃料となるので平成 28 年度から試験試行し、今年度から原燃料化を行っている。

【委員】 上越市も新しくストーカ方式になり、プラスチックなどが燃やせるようになった。

【事務局】 容り法の物を除き、新しい施設ではプラスチックは燃やすごみとしたい。

【委員】 ごみの熱量とかが増えて大変でないか。

【事務局】 そういう物も含めて、新しい施設で検討している。上越市では生ごみも分別しているので、糸魚川より熱量が高いのでないか。

【委員】 環境フェアは、どういう団体で開催しているか。

【事務局】 理科センターと協働し、科学の祭典と同時開催としている。環境の部門では、当市が処理を依頼している業者や、当市が関わっている事業者などのほか、生協や環境保全事業団、ペレットストーブ販売業者など。

【委員】 チームマイナス 6%の運動が長くなっている。住民に定着していない感があるが。

【事務局】 これを前面に出したイベントはないが、その方向性を出した事業を啓発していく内容となっている。自然エネルギーを使ったイベントもこれかと思う。

【委員】 風力発電は、徳合で取りやめており、新聞などでも、各地で取り止める例が出ている。

【事務局】 徳合は停止しているが、市で実施している大きな施設は、マリンドリームと徳合のふたつ。

新規で大型の風力発電事業をする場合、電力会社の受入制限などがあり難しく、小型風力発電が主流で、清掃センター付近にも民間の小型風力発電施設ができています。

市内複数の箇所で、小型風力発電を実施したいという相談も来ている。

上越市が風力発電を取りやめるという新聞報道もあったが、当市のマリンドリームにある風力についてはランドマーク的な意味もあり、継続していく。

【委員】 大型の風力発電は見向きせず、小型の物が普及してきた。糸魚川市でもどういう方針で小型風力発電に取り組むのか打ち出してほしい。

上早川で、農業用水を利用した小型小水力の試験をやったが、結果に基づきどのように市で取り組んでいくのか。また、地熱発電の試掘を実施したが、その結果はどうなったか。

【事務局】 小水力発電は、平成 22 年度に新潟県が可能性調査を実施し、上早川での調査もあった。その時点では、3.3kw程度の発電可能性が示されたが、今のように固定価格買取制度の無い時代で、その時点では採算性が見込めないということで断念した。

平成 26 年度に、市として、市内全域で小水力発電の可能地調査を実施。木地屋川・湯沢川・火打山川の3カ所が採算性ありとされた。その後、その河川については民間行差が調査に入っている。

地熱発電については、大野地内で26年度から開始し、1,350mまで掘削したが蒸気の噴出を見ることができなかった。JOGMECからの100%助成事業であり、そのまま埋戻しをさせていただいた。一般に、地熱発電の場合は200度程度の蒸気が必要だが、一番深いところでも100度を切っていて難しい状態。

情報をホームページでも公開しており、地熱発電についても、市内で複数の業者が可能性について調査に入ってきており、地元調整などのお手伝いをしている。

【委員】 太陽光発電でも補助金を出しているが、中途半端な施策かと思っている。市が進めていくという意気込みが見えない感がある。

【事務局】 再生可能エネルギーの導入は、家庭用の物に補助している。市が発電主体となるような大きいものは難しい。民間事業者が可能性について調査に入っているが、市としても地元調整など手伝っている。

【委員】 ジオパーク断層見学場所の工事は終了したか？

【事務局】 工期が6月30日で、7月14日に竣工式を行う予定。

【委員】 地球温暖化対策は定期的に見直すものなのか。

【事務局】 区域施策編は、環境基本計画のPDCAと同じような内容となることから、この審議会の質疑応答で対応させていただいている。

平成26年度策定で、環境基本計画の見直しに合わせた32年度までの計画。

4 その他

来年度も、PDCA 進行管理のご審議を予定しているので、その節はよろしくお願ひしたい。

5 閉会 池亀副会長